

各グループの強調点

(コーディネーター 中俣代表)

よろしかったでしょうか。フォーラムの中でもちょっと意見が出たんですが、林業というのも大きく農業の中に括って提言書をまとめるということで落ち着いたようでした。

まだご意見があられるようですが、時間も押してきましたので、では、最後に、各分科会での強調されたいこと等を一言ずつうかがいたいと思いますが、では、社会基盤の小辻さんからお願いいたします。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

今までも出てきた問題が出てくると思うんですが、大きく2つに分けて提言をしておきます。

道路交通では甑島架橋の現実も提言しておりますし、地域内アクセスの向上も提言していきます。新市のまちづくりの計画の中では、提言の項目はできれば多く残ってほしいと考えております。これは要望です。

また、会議の中で比較的議論の時間を要したのは、地域審議会の設置のところです。9市町村一体となって面積が広大になりますので、特に住民の声が今まで以上に届かなくなるといった点への懸念があげられました。地域会自体は旧市町村単位ということですので、これに加えて地域の住民の声を反映しやすいような仕組み作りというのが重要ということで強調したいと思います。

提言の中には、仕組みを作るという段階で留めておきますが、これはこれから先、協議会等行政の方で具体的なよいシステムを作り上げていただきたいと考えております。この点につきましては、さきほどの新市の概況説明でもありましたが、面積が広大となることが本地域の特徴にもなりますので、広い地域でも住民の声が届きやすいという環境づくりは重要ではないかと考えております。この点で終わります。

(コーディネーター 中俣代表)

社会基盤グループの提言の2つは、1つは、どこへも便利どこからも便利なアクセス網の充実。2番目に、新しいまちを描こう 顔づくり姿づくりまちづくり。2つの大きな項目でございます。

それでは、2番目に生活環境の宮下委員の方をお願いいたします。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

生活環境と言いますと、老若男女、さらには動物、植物、すべてにとって身

近で大切な問題であるというふうに認識しています。新たに生まれますまちが大きな目標を持って他の地域に情報発信していくという観点で、生活環境グループにおきましては、環境先進都市というテーマを掲げています。私達はこのすばらしい自然環境を保全し、有効に活用していかなければなりませんし、また、さきほどから出ておりますけれども、消防・救急体制ですとか住宅問題などをクリアして、住環境も充実させていかなければならないと思います。今年初めから、1月からですが、話し合いを重ねてきましたが、根底にあるのは、今後も新市の住民となる一人ひとりが自ら考え提言し続けていくことが必要ではないかなと思っております。そして、その内容をさらに議論していただいて、新しいまちづくりの計画の中で反映していったほしいと思います。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

新しい言葉で、「環境先進都市」という言葉が出てきております。生活環境グループを括りますと、4つありますが、みんなで取り組む環境先進都市づくり。2番、安心できる広域消防・救急体制の構築。3番、地域ニーズを踏まえた住宅・宅地の整備。4番、地域内外の人々が集う魅力ある公園、緑地、河川の活用。この4つで括っております。

では、3番に保健福祉の方から伊集院さん、お願いいたします。

(保健福祉グループ 伊集院睦子委員)

保健福祉の分野は、今後高齢化社会が進むことを考えますと、財政面を含め、非常に重要な政策の分野だと思えます。そこで、繰り返しになりますけれども、合併したことで急激に新しい方針のもとで進んでいきますと、不安とか、とまどいとかそういったようなものを覚えたり、また、いろんなところで支障が出てくるのではないかと思います。合併後もある一定の期間は現状の事業を維持しながら、徐々に移行していくのがよいのではないかと多くの意見が出ております。特に福祉サービスについては現行のサービス水準を低下させることがないようにお願いしたいということでございます。その中で、提言いたしました3つの柱の中では、最初にありました、市民すべてが住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりの推進、この内容を反映していただければ大変ありがたいと思います。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

総括する言葉は極めて概念的になってきますので、一般的になってき過ぎますので、どこでも通用してしまうかなという言葉になりがちですが、内容は結

構踏み込んだことを提言しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、産業経済の柏木さん、よろしくお願いいたします。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

産業経済の方ですけれども、今いろいろ申し上げましたが、今申し上げたことで私の言葉は尽きると思うんですが、少なくとも、今ちょっと出ましたように、農業というのはすべてを包含しておりますので、これは内部でも話があったんですけれども、当然森林もあれば畜産もあるし、いろんなものがありますけれども、そういうのはすべて検討をしてくれということなんですが、提言として申し上げたいのは、きょうはたくさんそれぞれの行政の長の方もいらっしゃいますけれども、新たに新市ができる時にはぜひこれだけはしていただきたいというのが私どもグループの願いなんです。それはさっき申し上げましたように、いくつか申し上げましたが、基本的には農業ということになるんですが、もし農業でできることなら川西薩地区の農業公社の設立をお願いしたい。当然、地域農業のセンターの機能づくりをぜひ創出してほしいということでございます。そして、水産業につきましては大型の漁礁の設置とか、あるいは、どこか串木野の沖あたりにたくさん魚を集めておいて、いっぺんに串木野市に揚げて売れるような、そういうような流通機構をしてほしい。あるいは、都市を創生する。当然、大きなまちになるわけですので、やはり都市機能もこれは十分発揮していかなければならないだろうというふうに考えておりますから、都市機能の発揮がよくできるためには新市のプロジェクトというのもぜひ立ち上げてほしいなということをお願いしておりますし、当然、それに伴えば観光課も作ってほしいなというふうな、できるだけ取り組んでいただける可能性があるようなものを今日は提言としてお願いしてございますが、まだまだ底辺はそれぞれお話もしたいこと、あるいは申し上げたいこと、また、理論・理屈、いろいろたくさんありますけれども、それを要約してこういうふうな考え方をお願いをしているというのが本音でございます。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。では、最後に、教育文化の方で中島さん、お願いいたします。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

これで終わりになるわけですか。

(コーディネーター 中俣代表)

まだ大丈夫ですよ。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

終わりになるわけでしょう。

(コーディネーター 中俣代表)

一応終わりのつもりですが、時間配分が少し早かったかもしれません。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

教育文化グループの提言についてでございますが、地域性といったようなことをさきほど申し上げましたが、地域内には本当に小規模学校も多いわけございまして、この合併すれば統廃合になるのではないかといったような考え方も委員の中からも出されておりましたが、特に小学校について、地域の学校、地域の中で子供たちが育つということを考えると、簡単に統廃合すべきではないという意見が強かったということ。地域の方々が、もうこれはどうしても2つの学校を1つにまとめた方がいいといったようなことがない限り、そういうことはしない方が本当の意味での新市の地域づくりができるのではないかという意見が強かったということ、そのこともお願いを申し上げたいと思います。

それから、現在、各旧市町村には教育行政の指導の職員という人が、指導主事さん、学校教育課長さんとかA L Tとか社会教育指導主事とか公民館の主事さんとかいるわけでございますが、それらについてはなるべく現在の職員を維持し、それを充実する。1つのところに全部1極集中ということはない方が新市の豊かな教育活動が充実できるという考えが強かったと考えております。

それから、教育文化活動の営みというのは子供たちにとりましては美しい未来の夢を描くということでありまして、高齢者をはじめ地域の住民にとっては自分たちの生き甲斐がそこで得られるということに他ならないわけでありまして、新市まちづくりの根本に関わる問題であると。そういう新しいふるさとづくりの取組みにつきまして、新市100年の体系をたてるという大局的な立場で、教育文化は銭を入れても何も卵は産まないということにならないように。人づくり子供づくりに、やはりさきほど財政の問題も出ましたが、いろいろな立場で節約できたり、そういつてできたものは、そういう教育文化の面に割いていただくと言いますか、それを充実できるようにということ強くお願いをいたしたいと、そういうふうに思って、そういう意見が強かったということを上申します。

さらに、この教育文化のグループの中では、明日のこの新市をつくる今の小・中・高校生にこの合併の意味とか、合併がどういうふうになるのかという

ことの情報を各学校その他で十分に与えるようなそういうことをしていただくことが、次の新市づくりの大きなもとになるという提言もあったことを付け加えまして、教育文化グループの提言を終わります。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。何か言い忘れていたことでもございましたら…。よろしいですか。

皆さん、時間が近くなってはきたんですが、だいたい終わりの時間になりますが、最後に私の方から説明をさせていただきたいと思いますが、8ページをお開けいただけませんか。

8ページの上の方の四角括弧の1、2、3、4、これは今までここの語ってきた内容の中ではちりばめられていたような言葉ばかりなんですが、1番目が「地域力を育む新しい地域創造プロジェクト」ですね。これは9ページを見ていただきますと、この四角の1番は、それぞれが4つの提言の中身は、1番目のコミュニティなんとやらというのは教育文化の方から出た提言、ギリシャ文字で3番目ということになります。2番目の地域の特色を生かした何とかというの、教育文化の提言になります。こうやって16出た大きな提言をもう1回5つの分科会の垣根を取り払ってまとめたのがこの4つの提言ということになってくるわけです。同じようにして、(2)は「フェイス・トゥ・フェイス、顔と顔が見える潤いと安心創出プロジェクト」ですね。これはそれぞれ保健福祉グループの案と生活環境グループの案でまとめられております。3番目の「潜在力を発揮する産業活力創生プロジェクト」。これは10ページを見ていただきますと、産業経済グループの案3つで成り立っております。4番目の「都市力を創生する都市飛翔プロジェクト」。これは11ページを見ていただきますと、産業経済、社会基盤、生活環境、3つのグループからの意見を5つまとめて、「都市力を創生する都市飛翔プロジェクト」としてございます。そして、それを8ページの下の方にグラフにしてみているんですが、地域力というのを縦軸にとりまして、都市力を横軸にとってみたんです。これはどちらでもいいと思うんですけども。そうすると、これがだいたいこのように並んできます。地域力の方に力を入れているプロジェクトが1番、2番。都市力の方に力を入れているのが3番、4番ということになります。こういうふうに並んでいるのだというようなふうに概念的に理解していただければいいかと思えます。縦軸の地域力の発揮というところでは、特に地域特性の活用。縦軸の上の方に書いてありますね。それから、コミュニティの強化。これに重点的に力を入れたいと。それから、横軸の方の都市力の発揮というところでは、規模が拡大することによる拡大効果、それと相乗効果、いろんなものが共有財産にな

るということでの相乗効果、このへんで都市力というふうに分析して力を入れていきたいというふうなことで提言がまとめられていると思います。

さきほど意見をもらいましたように、まだ不行き届きなところもございますが、一応、時間が来たようでございますので、終わりにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

以上